タウンニュース®

南区版

2023年（令和5年）3月16日(木)号 No.784

■発　行：株式会社タウンニュース社　https://www.townnews.co.jp
■編集室：〒231-0033 横浜市中区長者町 2-5-14 セントラルビル 2F　TEL：045-227-5050（代）FAX：045-227-5051
■発行責任者：宇山 知成
■編　集　長：門馬 康二

2023年トルコ・シリア地震救援金

2023年5月31日(水)まで

日本赤十字社では、救援金を募集しています。ご支援をお願いします。

協力方法の詳細は二次元コードからご確認ください。

URL https://www.jrc.or.jp/contribute/help/2023turkeysyria/

(問)日本赤十字社神奈川県支部　☎045・681・2123(代)

新川町総合建設業

小俣組区とドローン協定

災害時、所有機で状況調査

新川町の総合建設業「株式会社小俣組」が南区役所と「災害時等におけるドローンを活用した活動支援に関する協定」を3月9日に結んだ。災害発生時に同社所有のドローンを使って被害状況を調査するなど、情報収集を行うもので、区は人の立ち入りが難しい災害現場で役立てていく意向だ。

小俣組は1922年創業の総合建設業で昨年、創業100年を迎えた。公共事業や民間工事を行うほか、介護付き有料老人ホームも運営する。

昨年4月には、株式会社サイワークスとの業務委託でドローンラインセンス取得のために必要な知識や技術が学べるスクールを開講。同社の建設現場でも完成した建物の確認や写真撮影などのためにドローンを使っているという。

昨年2月、神奈川県ドローン協会と横浜市が災害時のドローンを活用した支援活動に関する協定を締結。保土ケ谷区でも12月にドローンを所有する建設業者が区と同様の協定を結んでいた。この流れを受け、小俣組も地域貢献の観点から南区に相談・提案し、協定が締結された。

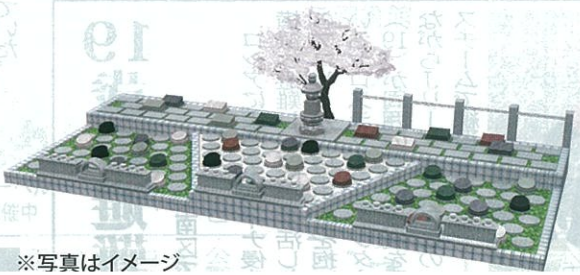
ドローンを前に協定書を手にする小俣社長（左）と鈴木区長（3月9日、南区役所）

上空から情報収集

協定では、災害時に南区が同社に要請を行い、災害現場に派遣されたライセンスを所有する社員がドローンを使って上空から被害状況を調査する。区はドローンによって集められた情報を避難情報の発令や解除の判断材料の一つとして扱う。

災害時、市はヘリコプターや定点カメラなどで被害状況を把握するが、細かい地域の状況を上空から把握するのは難しいとされていた。

3月9日に南区役所で協定締結式があり、南区の鈴木健一区長は「ドローンは人の立ち入りが難しい災害現場の情報収集で力を発揮する。人的・物的な支援をいただき感謝したい」と話した。



※写真はイメージ

買取おりづる横浜弘明寺店

対象金券を100%換金

「このチャンスにご来店ください」

買取おりづる横浜弘明寺店で現在、対象金券を100%で換金している。同店の山田店長は「期間限定の特別企画なので、このチャンスにぜひご来店ください」と呼び掛けている。

同店では他にも、テレカ50度数380円以上、50円以上シート切手を最大70%で買取中だ。また、パールのアクセサリーの買取を強化している。査定は無料なので、気軽に訪れてみては。

LINEでも査定承ります

金・プラチナはもちろん、その他何でもご相談ください!

対象の金券

全国百貨店共通商品券
JTB・JCBギフトカード
換金率100%
1人10,000円まで

パールのアクセサリー

買取強化中!

おりづる 横浜弘明寺店

☎045-315-5800

横浜市南区弘明寺町259 営10:00～19:00 年中無休

近隣コインパークご利用のお客様に 駐車料金の補助あり ※金券・両替のご利用を除きます。

ビエラ蒔田でマルシェ

シェアキッチンが21日

南太田駅そばのレンタルシェアキッチン「シムズキッチン」の利用者を中心にした菓子や雑貨の販売会「シムズキッチン桜マルシェ」が3月21日午前10時30分からビエラ蒔田で行われる。

シムズキッチンは、菓子製造業許可付きのシェアキッチン。現在、約60人の会員がおり、同所で作った品物は販売が可能なため、利用者から人気を集めている。

マルシェではビエラ蒔田1階の「まちかど広場」と3階のスタジオとテラスで焼き菓子やパン、ハーブティー、ハンドメイド雑貨などを販売。3階では音楽演奏などもあり。詳細はシムズキッチンのサイト（https://simskitchen.amebaownd.com/）で。

区別所門院 普門院

「しだれ桜」

今の暮らしの負担

維持管理など手厚く

しだれ桜の名所「普門院」の樹木葬墓地が好評

全日本不動産協会

書や広告代理店勤務などを経験。2015年初当選で2期目。

岸部氏は教員として市立小中学校に勤務した後、2011年に初当選し、3期目。

3月4日の立候補予定者説明会に出席し、出馬を検討していた元職の男

手作りつるし雛 一同に

別所・普門院に600点展示

種類豊富なつるし飾りが並ぶ

動物や花、人形などのつるし飾りが「普門院」＝別所＝の令和毘沙門堂の多目的ホールに展示されている。

つるし飾りは、子どもの成長や幸せを願い作られるもので、江戸時代から始まったとされる。同寺は昨年、地域住民が作った約300点のつるし飾りを展示した。今年は昨年の2倍以上となる600点に増やし、すでに多くの反響があったという。季節の花など春を感じるもので、誰でも気軽に見られる。

令和毘沙門堂は2020年に完成。バリアフリー設備が整った休憩所の役割を担い、今の時期は境内に咲く「しだれ桜」を建物内から鑑賞できるほか、法要や寺主催のイベントも。これまでに別所地域ケアプラザが昭和時代の歴史や文化を発信する住民向け講座を行うなど、にぎわいを創出する場所としての役割を担っている。

つるし飾りは3月末ごろまで展示予定。問い合わせは普門院☎045・741・7365。

書道を体験する留学生

南区内の奉仕団体、横浜南ロータリークラブ（青木理会長）が3月12日、外国人留学生らに日本の文化を体験してもらう企画を関東学院中学高校＝三春台＝で行い、約140人が参加した。

同クラブは以前から横浜国大の留学生が生活する同校を会場に書道や茶道、和太鼓などを体験してもらう「国際交流〝和〟の集い」を初めて行った。

クラブは「いずれは南区にいる様々な外国に関係する人が参加できるイベントにしたい」と構想を語っていた。

地区越えて合同訓練

井土ケ谷・本大岡の町内会

消火栓に接続したホースで放水を行う住民（写真右側が井土ケ谷地区、左が本大岡地区）

井土ケ谷地区の井土ケ谷上町第一町内会（佐々木哲夫会長）と本大岡地区の弘明寺町北ノ前町内会（多々良道雄会長）の合同防災訓練が3月12日に行われた。異なる地区連合町内会にある自治会町内会が合同で防災訓練を行うのは珍しい。

両町内会は南中学校の裏の丘の上で接している。周辺は道が細く災害、火災の際は消防車が入れないため、延焼を食い止めることが課題となっている。合同訓練は2019年に行い、4年ぶり2回目。

訓練には約50人が参加。消防署員、消防団員から消火栓の開け方やスタンドパイプ式初期消火器具の使い方の説明を受けた。その後、消火器具を消火栓につないで放水の練習を行った。器具が入った初期消火箱は、上町第一町内会に5カ所、北ノ前町内会には1カ所ある。

上町第一町内会は消火器具が入った消火箱の位置などを示すマップが入ったトートバッグを作って会員に配布するなど、防災意識の向上に取り組んでいる。佐々木会長は「いざという時に消火栓を使い、延焼を防げるようにしたい」と話していた。

人物風土記

題字は
山中竹春 横浜市長

100年企業から幸せな場を

●災害時の活動について南区と協定を結んだ株式会社小俣組の社長を務める

小俣 順一さん

新川町在勤　43歳

○…災害現場などの状況調査のために、自社所有のドローンを使って活動することに関して、南区と協定を結んだ。「災害時の初動が早くなれば」といい、「地域に必要とされる会社でありたい」と思いを語る。

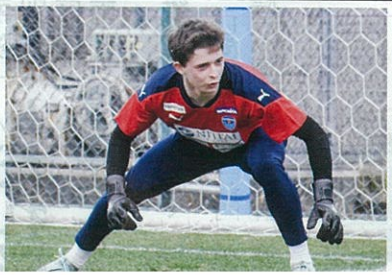
○…中区で生まれ育つ。マイケル・ジャクソンに憧れ、中学生のころにダンスに興味を持った。高校卒業後は振り付けなどの仕事をしていたが、20歳の時、自身が振り付けを指導していた人気テレビ番組「笑っていいとも！」の「いいとも青年隊」に抜てきされた。「コマ」の愛称で3年間出演。タレントを続ける道もあったが「生放送の速いやり取りに付いていけず、実力不足なのが分かった」と芸能界を去り、母親が営んでいた飲食店を1年手伝った後、小俣組へ入社した。

○…入社後は発足直後の介護部門で介護付有料老人ホームで入居者と接し、「若い自分を孫のように扱ってくれた。海パン姿で入浴介助をしていたのはいい思い出」。その経験から「施設をディズニーランドのような楽しい場にしたい」とエンターテインメント性があり、利用者も家族も幸せになれる場作りを目指す。昨年9月、創業100周年の節目で父からバトンを受け、トップに就いた。約550人の従業員を抱えるが、「小さいころから会社に出入りし、その時から知っている社員が活躍しており、頼もしい」と100年企業の結束力を強調する。

○…家には9歳から10カ月まで4人の子がいる。「鍋を振るのが好きで」と夜の会合の前にスーパーで買い物を済ませ、チャーハンやカレーを作るのが得意。「『パパうまいね』と言われる」と目を細める。「地域に必要とされる会社でありたい」と様々な立場の人を支え、101年目の企業を引っ張る。

19歳の避難

南区で



ヤロスラフ・シュトンダさ

ロシアによるウクライナ侵横浜へ避難し、南区で生活らプロサッカー選手の夢を抱いるヤロスラフ・シュトンダ（19）が周囲の手厚い支援をながらJリーグ・横浜FCのスチームで練習している。